



TITLE:

花山だより(3月・4月)

AUTHOR(S):

月斗

CITATION:

月斗. 花山だより(3月・4月). 天界 1936, 16(181): 269-269

ISSUE DATE:

1936-04-25

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/167211>

RIGHT:

花 山 だ よ り (3月・4月)

3月に入つて日食観測の準備は愈々忙しくなり、具體的に着々實行されてゐる。先づ柴田氏の擔當せられるコロナのスペクトル寫眞は乾板選擇、處理、器械裝置の改善等に全力を傾倒して目下の所、現地との交渉及び微細な部分に就ての研究が續けられてゐる。擔當者は柴田氏と荒木(九)氏、稻葉氏の10米コロナ直接寫眞裝置は荒木(健)氏と協力して既に準備も完了。目下の所無線機の修理後の試験に移つてゐる。小山氏及び木邊氏擔當のコロナのホトメトリは臺員總掛りでザトリウス機を解體して望遠鏡の筒を其儘使用、グラブ製の40糎シロスタツトを使用する事となり、運轉部の電氣裝置の準備も終り、フィルタ完成を待つて準備萬端整ふ豫定である。一方コロナの變動寫眞攝影器は木邊氏の努力で鏡面3個完成、尙1個の豫備品も出來、筒及び内部の取付裝置も完成した。4月16日に樂友會々館で次の様な 最後案を決定し、萬一の場合を徐いて裁決された。

第1隊 コロナスペクトル 北海道枝幸町 30糎シロスタツト(柴田・荒木(九))

部分食及びコロナ直接寫眞 北海道枝幸村 15糎シデロスタツト(稻葉・荒木(健))

第2隊 コロナの光度觀測 北海道中頓別村 40糎シロスタツト(小山・木邊)

コロナ變動寫眞 北海道中頓別村 反射鏡20糎, F 10, (堀井)

第3隊 コロナ變動寫眞及びコロナ寫眞 北海道遠輕町 反射鏡20糎, F 10, 及びハイデ機(高城)

第4隊 コロナ變動寫眞 滿洲國呼瑪 反射鏡20糎, F 10, (公文)

花山では一昨年風害の個所で未復舊の所が多かつたが、今度花山道路、アンテナ及び望遠鏡格納小屋の改築を初め、更に從來水量不足の爲め頗る不便を感じてゐたので、新たに井戸を掘りタ1ピン式5馬力モ1タ1が据付けられた。尙建築物全體に互つて徹底的に電線系統の修理を行ひ、殆んど完成の域に近づきつゝある。今度新たに購入した天頂儀は新裝の建物に備へ付けられ將來野外の觀測に使用される事とならう。既報の天津石場の藤井天文臺では愈々改裝完成。来る廿九日には盛大なる披露式を開催され、當日は山本博士の講演があるとの事、誠に慶賀の至りで、今後の活躍が大いに期待される。

4月24日(月斗生)